

# MVP・POC 開発サービス紹介

最小限の価値で市場検証を先へ進めよう

テンジントックカンパニー



# 構成



1

## テンジントックカンパニーが支援するMVP・PoC

MVPの定義、検証の目的、事業フェーズにおける立ち位置 (3-7ページ)



2

## MVP・PoC Development

MVP・PoC開発の意義、プロセス、柔軟な開発体制 (8-14ページ)



3

## 支援内容の具体例

要求定義・要件定義、デザイン、開発、テストのプロセス (15-20ページ)



4

## ユースケースごとの活用例

フィットネスアプリ、住宅管理システム、タレントマネジメント (21-26ページ)



5

## 開発事例

ブロックチェーン楽曲管理、壁紙ECサイト、オンラインフィットネス (27-30ページ)



6

## 会社紹介

会社概要、ビジョンとミッション、事業フェーズ別伴走支援 (27-30ページ)

# MVP・POCの基本概念



## MVP

### Minimum Viable Product

- ✔ **定義**：プロダクトとしての最小価値が検証できる動作可能なプロダクト
- 🎯 **目的**：Product Market Fit (PMF)の検証を行うため、市場にリリース
- 🔍 **ゴール**：提供価値・手段・仕組み・各種戦略の改善点を発見し、収益を最大化
- 📋 **主な検証内容**：提供する体験・仮説に実際価値があるか、成長可能性の検証



## POC

### Proof of Concept

- ✔ **定義**：特定の技術や概念が実現可能であることを証明するための初期段階のプロダクト
- 🎯 **目的**：技術的可行性や概念の有効性を早期に検証するため
- 💡 **ゴール**：アイデアの実現可能性を判断し、リスクを低減。本開発への進捗を決める
- ⚙️ **主な検証内容**：技術的実現可能性、ユーザーニーズの特定、核心的な機能の検証

# MVP vs POC - 違いと使い分け

## 🚀 MVP (Minimum Viable Product)

「プロダクトとしての最小価値が検証できる動作可能なプロダクト」

### 検証の目的とゴール

- 🎯 Product Market Fit (PMF)の検証
- 📈 獲得できる収益や便益を最大化

### 主な検証内容

- ✅ 提供する体験に実際価値があるか（価値検証）
- 📊 市場での成長と拡大可能性（成長検証）

## 🧪 POC (Proof of Concept)

「概念やアイデアの技術的可行性を検証するための初期段階の試作品」

### 適用場面

- 💡 事業アイデアの初期段階
- ❓ 技術的実現可能性に疑問がある場合

### 選択基準

- ✅ アイデアの受容性を検証
- ➔ 継続するかどうかの判断基準となる

VS

## 📍 適用場面と選択フロー

### MVP・PoCの適用タイミング

事業アイデアの受容性が確認でき、市場投入を目指す段階

### POCの適用タイミング

新規事業や技術の初期段階で、概念や技術の可行性を検証する必要がある場合

# MVP・PoC開発の定義と価値

## MVP・PoCの定義

「プロダクトとしての最小価値が検証できる動作可能なプロダクト」と定義



### 早期市場投入

1stリリースを前提としたプロダクトを活用し、Product Market Fit(PMF)の検証を行います



### 継続的改善

プロダクトの運用を通じて提供価値・手段・仕組み・各種戦略の改善点が発見され、最適化していきます



### 収益最大化

市場への投入を通じて獲得できる収益や便益を最大化することを目的とします



### 価値検証

提供する体験・仮説に実際価値があるかどうかを検証し、成長可能性を評価します

STEP TWO

# MVP・PoC開発の目的とゴール

## ◎ MVP・PoCの目的

「プロダクトとしての最小価値が検証できる動作可能なプロダクト」を早期にユーザーに届けることで、**Product Market Fit (PMF)**の検証を行うことです。

STEP THREE

Marketing Strategy

### 📈 最大限の収益化

プロダクトの運用を通じて提供価値・手段・仕組みを改善点を発見し、継続的にアップデートすることで獲得できる収益や便益を最大化するということが目的です。

### 🚀 市場へのリリース

製品版もしくはβ版のサービス・プロダクトとして市場にリリースし、実際のユーザー反響を収集しながらサービスを改善・進化させていきます。

# 事業フェーズにおけるMVP・PoC開発の位置づけ



## MVP・PoC開発の意義

- 最小限の価値で市場検証を実施し、本格的な開発前に方向性を確認
- ユーザーのリアルな反応を収集し、本当に必要な機能に注力
- 開発コストと時間の削減をしながら、事業の可能性を早期に検証
- 早期の反復と改善を可能にし、市場適応能力を高める

# MVP・PoC開発対象とスコープ

MVP・PoC開発では、以下の対象に対して精度と品質の高い開発を提供します



## MVP・PoCコンセプト

価値・手法の中からMVP・PoCとして開発すべき要素を特定し、コンセプト化



## 必須機能設計

MVP・PoCとしての最低限の機能要件と非機能要件を洗い出し、設計



## 体験設計

ユーザー体験と顧客課題解決のためのインタラクション設計



## UI/UXデザイン

直感的で使いやすいユーザーインターフェースと体験のデザイン



## 開発実装

設計された機能と体験を実装する高品質なコードの作成



## テストと検証

市場でのMVP・PoCの性能検証とフィードバック収集のためのテスト

# MVP・PoC開発への着手条件

POC(Proof of Concept)フェーズで事業アイデアの受容性を検証した後、MVP・PoCフェーズで事業性をあげた上でMVP・PoC開発につなげるために、BTCそれぞれの観点でMVP・PoCの定義をおこないます。

## Business 観点



- 「提供価値(成功状態)」「手法(機能群・体験)」の定義や優先順位付けができていない
- KSF(最重要成功要因)が定義できていない
- PMFフェーズでの検証内容に合わせて、MVP・PoCの技術的検証ができていない
- 「営業戦略」「持続戦略」の仮説を立てられていない
- 仕組み(ビジネスオペレーション、人員体制、導入ツール等)の仮説ができていない

## Tech 観点



- 提供価値に対して、強みとなる技術や技術の検証ができていない
- PMFフェーズでの検証内容に合わせて、MVP・PoCの体験が定義できていない
- 特にサービスのコア体験が機能に依存する場合(xR, GPS, 撮影機能, 3D, OCRなど)、機能要件の実現可能性を確認する

## Creative 観点



- 「ターゲットユーザー」「顧客課題」が特定・優先順位付けができていない
- PMFフェーズでの検証内容に合わせて、MVP・PoCの体験が定義できていない
- サービスを利用・閲覧する意欲のある人物像が明文化されていないこと
- その人物のどの課題・ニーズに対して価値提供をおこなうのか、定義されていないこと

# BTCアプローチによる事業支援

Business、Technology、Creative三つの視点からの包括的な事業共創支援



## Business

- ✔ 事業戦略とビジョンの立案
- ✔ 市場分析と競合調査
- ✔ 収益モデルとマネタイズ戦略



## Technology

- ✔ 技術選定とアーキテクチャ設計
- ✔ プロトタイプ開発と技術検証
- ✔ セキュリティとパフォーマンス



## Creative

- ✔ ユーザー体験の設計と最適化
- ✔ サービスコンセプトとブランド化
- ✔ デザインキャンプとプロトタイプング

## 事業開発におけるテンジントックカンパニーのアプローチ

BTCのバランスが取れていることが理想ですが、不足している要素はテンジントックカンパニーが補完します。Business + Creativeの連携により、事業状況に合わせた最適な体制で事業推進を共に進めます。

# テンジンの強みが発揮されるMVP/PoC開発サービス

早期にユーザーに価値を届け、市場反応を取得するためのMVP・PoC開発を、高品質な専門チームでサポートします。



## 多様なスキルセットのチーム

ビジネスデザイナー、エンジニア、デザイナーなど、多様なスキル・経験値を持ったメンバーでプロジェクトを推進。



## アジャイル開発プロセス

機能単位で小さく迅速な開発を繰り返し、ユーザーからのフィードバックやニーズを取り入れながらアップデートを繰り返す。



## PMFから成長まで一貫支援

リリース後の検証から成長段階まで、ビジネス・デザイン・エンジニアリングの視点から一貫して伴走し支援。

 **MVP・PoC開発の実績**：日本国内のスタートアップの0→1開発を中心に、業界・事業規模を問わず数多くの価値創造に伴走します。

# MVP・PoC開発における課題と解決策

## ⚠️ 課題 (AS-IS)

❓ **MVP・PoCの定義と検証方法の不明確さ**  
MVP・PoCをどのように定義し、検証するのかわからない

👥 **適切なベンダーの探索**  
機能要件を満たした実装をしてくれるベンダーが見つからない

💰 **コストと予算のバランス**  
開発予算を抑えたいが、その中で必要な機能を開発できるか不安

🕒 **開発スケジュールの遅延**  
開発人材が足りず、開発スケジュールに間に合うかわからない

## 💡 解決策 (TO-BE)

👥 **多視点の支援**  
テンジントックカンパニーではビジネス、テック、クリエイティブの専門家がいるため、それぞれの視点から事業に合わせたMVP・PoCの定義、開発、検証のサイクルをご支援します。

🚀 **早期リリースの実現**  
サービスの最小価値を検証できる機能から開発着手するため、開発に費やす費用と時間を最小限に抑えることができます。

👤 **豊富な人材資源**  
MVP・PoC開発を進めるために必要な人材でチームを作り、共に開発を推進します。

# 柔軟な開発体制の構築

クライアントの要件に応じたカスタマイズ可能な開発チーム編成

## 要求定義が明確な場合

MVPの機能要件が多いが、スピード感を重視する場合のチーム編成例

 PM  Designer  Engineer (Japan)  Engineer (India)

## デザイナー・エンジニアが不足

社内にビジネス側のみで、デザイナー・エンジニアが必要な場合の編成

 Designer  Engineer (Japan)

## 技術検証が必要

技術選定や機能要件のリサーチ、方針の提案が必要な場合の編成

 PM  Engineer (Japan)  Engineer (India)

## 体験設計が重要

理想の体験やワイヤーフレームはあるが、面デザインに落とし込める人がいない場合

 Designer

 事業の成長に合わせてチームを調整し、変化の激しい市場環境に素早く対応します

# チーム体制のケーススタディ

## 1 要求定義がほぼ完了しているケース

開発するプロダクトの要求整理・要件定義がある程度決まっているが、開発体制を強化し、スピード感をもって進めたい場合



推奨チーム構成: PM, Designer, Engineer(Japan), Engineer(India)

## 2 デザイナー・エンジニアがいないケース

社内ビジネス側の人材はいるが、形にしていくデザイナー・エンジニアがいない。技術検証やユーザビリティ検証も進めたい



推奨チーム構成: Designer, Engineer[Japan]

## 3 技術検証が必要なケース

技術選定や機能要件等、開発に関するリサーチや方針の提案からお願いしたい。開発体制を強化し、スピード感をもって進めたい



推奨チーム構成: PM, Engineer(Japan), Engineer(India)

## 4 体験設計に強みがあるケース

理想とする体験のイメージやワイヤーフレームはあるが、面デザインに落とし込める人材がいない。社内にエンジニアはいる



推奨チーム構成: Designer

# テンジントックカンパニーの3つの特徴



## 柔軟な人材アサイン

- ✔ 事業フェーズや開発状況に合わせた最適な人材配置
- ✔ 多様なスキル・経験値を持つメンバーによるチーム構成
- ✔ 変化の激しい事業状況に合わせた迅速な対応



## アジャイル開発

- ✔ 機能単位で小さく迅速な開発を繰り返すアジャイルプロセス
- ✔ ユーザーからのフィードバックやニーズを取り入れながらのアップデート
- ✔ 柔軟性・効率性と品質のバランスを最適化



## 成長支援

- ✔ PMF～Growthまでプロダクトの成長を一貫して支援
- ✔ ビジネス・デザイン・エンジニアリングの視点から全面支援
- ✔ 事業の成長段階に合わせた適切な支援とリソース配分

# 要求定義・要件定義プロセス

MVP・PoCの目的・ゴール設定から必要最低限機能策定までの体系的アプローチ

## 1 目的・ゴール設定

サービスで解決したい課題やゴールを洗い出し、MVP・PoCを通して検証する仮説を整理します。

要件定義書

## 2 MVP・PoCコンセプト作成

事業構想における価値・手法の中からMVP・PoCとして開発すべき価値・体験を特定します。

KSFの策定

## 3 ユーザー要求の整理

MVP・PoCコンセプトにおける顧客体験及び業務の流れが定義できているか確認します。

ナラティブフローツ

## 4 機能の策定

目的・ゴールを達成するためにMVP・PoC開発で対応する必要最低限な機能・非機能要件を校証します。

ユーザーストーリー

## 要求定義プロセスの特徴

- ✓ ユーザーの声を重視し、MVP・PoC開発の方向性を決定
- ✓ 事業の成長段階に合わせた要件定義の深度を調整
- ✓ 出力物を通じて、MVP・PoC開発の進捗状況を可視化

# Wireframing Vs Prototyping Vs Mockups

## デザイン開発プロセス



1

### 情報・画面の設計

ユーザーが必要な情報に迅速かつ簡単にアクセスできるように、画面に表示する情報を設計します。

ユーザーフロー図

画面一覧

機能一覧



2

### 画面デザインの作成

プロダクトの使いやすさや機能の実現可能性を考えたが、UI/UXを設計・作成します。

デザインカンブ

UI/UX design



3

### サービスブランドの構築

デザインの一貫性を図り、ブランドの信頼性を高めるために、デザインのルールを策定します。

デザインガイドライン

### 💡 デザイン開発の特徴

✔️ ユーザー体験を最優先に考慮

✔️ プロトタイプによる早期フィードバック

✔️ Brandingに合わせた一貫性のあるデザイン

1

Wireframing

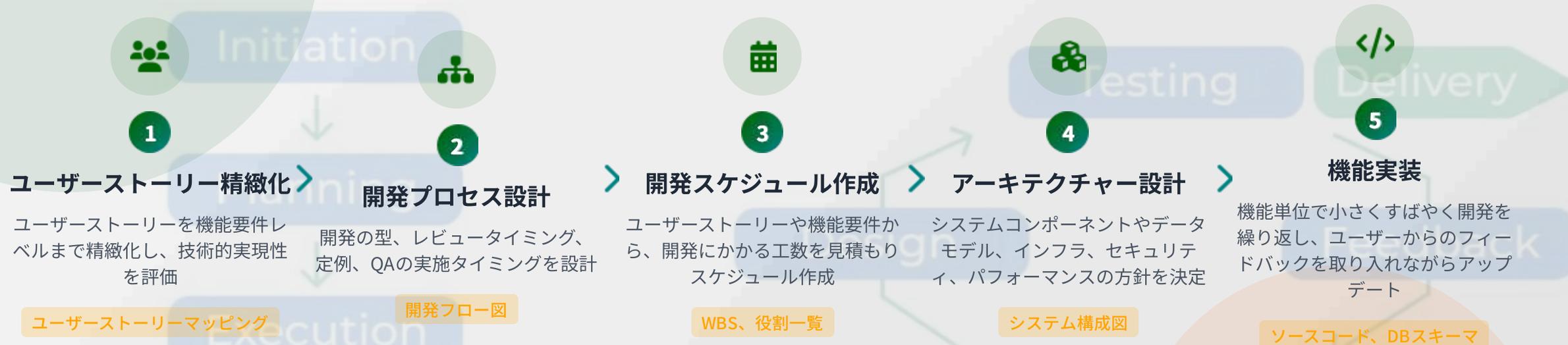
2

Prototyping

3

Mockups

# 開発実装プロセス



## アジャイル開発アプローチ

テンジンテックカンパニーは、機能単位で小さくすばやく開発を繰り返し、ユーザーからのフィードバックやニーズを取り入れながらアップデートを繰り返す、アジャイルの思想を基本としています。

- ✔ 開発工程とテスト工程をリンクさせ、検証作業を効率よく実施
- ✔ V字モデルを採用し、品質担保を重視
- ✔ 柔軟性・効率性を求めながらも確実な品質を実現

# アジャイルベーステスト戦略



## ✓ V字モデルの採用の意義

- 開発工程とテスト工程をリンクさせ、検証作業を効率よく実施
- アジャイル開発でも品質の確実な担保を可能に
- 開発プロセスに合わせてテストプロセスを調整可能

## 💡 アジャイルとテストの融合

- 機能単位で小さくすばやく開発を繰り返しながら、継続的テスト
- ユーザーからのフィードバックやニーズを取り入れながらのアップデート
- 柔軟性・効率性を求めながらも確実な品質担保

# 品質管理とDevOps

## プロジェクトアクセラレーション・オフィス (PAO)

テンジントックカンパニーのすべてのプロジェクトに横断的に関わり、以下の3つの品質面を包括的に管理しています：

- ✔ プロダクト品質
- ✔ DevOpsプロセス品質
- ✔ サービス品質

「クライアントの満足度向上と、継続可能な開発品質の維持を目的としています」

## 全社共通管理シート



全てのプロジェクトを監視。バグ発生数に応じて即時検証を行い、インシデントを未然に防ぐ。

## 品質均一化のためのテンプレート作成



プロジェクトキックオフ用の資料やリリースノートをテンプレート化。プロジェクト品質を均一化する。

## 開発品質に関するカスタマーサーベイ



開発の品質やオペレーションについて、クライアントに2回の匿名サーベイを実施。結果を基に業務フロー等を改善。

## 開発品質維持のための社内教育



実際の開発や業務で必要となるナレッジを社内で蓄積。恒久的な開発品質維持のため、社内教育を徹底。

# 開発実績1 - 企業向けAI英語学習アプリ

## 🔊 プロジェクト概要

マルチエージェントAIを活用した企業向け英語学習プラットフォーム。学習者の進捗を分析し、個別最適化された学習コンテンツを提供。AIによる発音評価と文法チェック機能を実装。

## 📅 取り組んだ内容と期間

1-3ヶ月目

### AI機能開発

- マルチエージェントAI設計
- 学習進捗分析エンジン
- 発音評価AI実装
- 個別最適化アルゴリズム

### 👥 実際の開発体制



日本チーム  
2名



インドチーム  
4名

4-10ヶ月目

### プラットフォーム構築

- 学習管理システム開発
- 企業管理者ダッシュボード
- 学習データ分析機能
- レポート自動生成機能

### 💡 おすすめする企業

- ✓ AI技術を活用した学習効果向上を求める企業
- ✓ 従業員の英語スキル向上を効率化したい企業

# 開発実績2 - ゼネコン建設業向けアプリ



## プロジェクト概要

建設プロジェクトの総合管理プラットフォーム。プロジェクト進捗、勤怠管理、安全管理、予算管理を一元化。リアルタイムダッシュボードで現場状況を可視化。

### 課題

- プロジェクト情報の分散と非効率な管理
- 安全管理と勤怠管理の手作業化
- 予算管理と進捗管理の可視化不足

### 解決策

- モバイルアプリとWebプラットフォームの統合開発
- リアルタイムデータ同期システムの構築
- 安全管理とコンプライアンス機能の実装

### 成果

- リアルタイムダッシュボードで現場状況を可視化
- 勤怠・安全・予算管理の一元化を実現
- 建設業界のデジタル化を加速

## 開発プロセス



要件定義



デザイン



開発



テスト



リリース

# 開発実績3 - AI主導型学習LMSアプリ

## 🎓 プロジェクト概要

AI技術を活用した学習管理システム。個別最適化されたプロジェクトとスキル習得を自動化。学習者の進捗をリアルタイムで分析し、最適な学習パスを提供。

- ✓ AIアルゴリズムによる個別最適化学習パスの提供
- ✓ プロジェクトベースの学習とスキル習得の自動化
- ✓ リアルタイム進捗分析とフィードバック機能

### こんな企業におすすめ

- 👤 個別最適化学習システムを導入したい教育機関
- 🏢 AI技術で学習効果を向上させたい企業

## 取り組んだ内容と期間

1

### AIアルゴリズム設計、システムアーキテクチャ

- 機械学習モデルの設計とトレーニング
- 個別最適化アルゴリズムの実装
- スケーラブルなシステムアーキテクチャ設計

2-3

### プラットフォーム開発、ユーザーインターフェース

- 学習者ダッシュボードの開発
- インタラクティブな学習コンテンツ作成
- 進捗トラッキングシステムの実装
- ユーザビリティテストと改善

3-4

### テスト、デプロイ、運用最適化

- AIモデルの精度検証とチューニング
- システムパフォーマンス最適化とユーザーフィードバック反映

# 開発実績4 - 教育機関向けERPシステム

## 🎓 教育機関向け総合ERPシステム

学務・管理運営プロセスの一元管理を実現する統合プラットフォーム

### ⚠️ 課題

- 学務システム、人事システム、財務システムの分散
- データの一元管理ができず、意思決定の非効率化
- 手作業によるミスと業務効率の低下

### 💡 ソリューション

- 学務・人事・財務システムの統合プラットフォーム
- リアルタイムデータ分析とダッシュボード機能
- ワークフロー自動化と承認プロセスのデジタル化

### ⚙️ 実装内容

- モジュール化アーキテクチャ設計
- ロールベースアクセス制御システム
- データ移行とシステム統合サポート
- ユーザートレーニングと運用サポート

### ✅ 成果

- 📈 業務効率の大幅改善とコスト削減を実現
- 🗄️ 統合データベースによる意思決定の迅速化
- 👥 教育機関のデジタルトランスフォーメーションを支援

# 開発実績5 - ビットコインウォレット & クレジットサービス

## プロジェクト概要

暗号資産の安全な保管と与信管理を統合したフィンテックプラットフォーム。ビットコインウォレット機能とクレジットサービスを組み合わせ、ユーザーの資産管理と資金調達をサポート。

## 実装アプローチ

- ✔ マルチシグネチャウォレットの実装
- ✔ リアルタイム与信評価システム
- ✔ ブロックチェーン技術とAPI統合
- ✔ コンプライアンスとセキュリティ対応

## プロジェクトタイムライン

- 2023年1月  
プロジェクト起動
- 2023年4月  
ウォレット機能開発
- 2023年7月  
クレジットシステム統合
- 2023年10月  
サービスローンチ

## 成果と効果

### CryptoCredit Platform

暗号資産とクレジットの統合プラットフォーム

- ✔ セキュアな暗号資産保管を実現
- ✔ 与信管理と資金調達サービスを提供

# 開発実績6 - AI動画自動編集・統合プラットフォーム

## プロジェクト概要

AI技術を活用した動画自動編集・統合プラットフォーム。スポーツやイベントのハイライト映像を自動生成し、コンテンツ制作の効率化と品質向上を実現。機械学習とコンピュータービジョン技術を組み合わせた革新的ソリューション。

### AIアルゴリズム開発

- ✓ コンピュータービジョンモデルの設計
- ✓ ハイライト自動検出アルゴリズム
- ✓ 機械学習モデルのトレーニング

### プラットフォーム開発

- ✓ クラウドベースアーキテクチャ設計
- ✓ ユーザーインターフェース開発
- ✓ 動画処理エンジンの実装

### システム統合・運用

- ✓ スケーラブルなインフラ構築
- ✓ リアルタイム処理システム
- ✓ ユーザーサポートと運用保守

## プロジェクトの特徴

- 🤖 最新のAI技術とコンピュータービジョンを組み合わせ、**自動化**された動画編集プロセスを実現。スポーツイベントやライブ映像からハイライトシーンを自動検出し、高品質なコンテンツを短時間で生成。

# テンジンテックカンパニー 会社概要

## 基本情報

社名	テンジンテックカンパニー合同会社
設立日	2026年1月14日（メンバーの既存実績含む）
従業員数	約50名（2025年1月時点※グローバルでの業務委託含む）
本社所在地	神奈川県横浜市
資本金	600万円

## グローバル展開

 インド（バンガロール等）

# 企業ビジョンとミッション



## Our Vision

### 誰もが価値創造に夢中になれる世界

Create a world where everyone has the freedom to make awesome things that matter.

テンジントックカンパニーはまさに「太陽」。地球上のすべての生命を育むインフラです。

革新的なサービスや、新しいイノベーターの「種」を、私たちの光で開かし、それらを育む最適なインフラになることを目指しています。



## Our Mission

### 本気で課題に挑む人たちと事業を通して社会にポジティブなアップデートを仕掛けていくこと

Create radical products and businesses with people who actually care about what they do.

スタートアップや大企業の垣根を超え、価値創造に最適なチームを編成し、本気で社会課題に挑むヒト・モノ・コトとのコラボレーションを通じて、様々な分野のデジタル化を促進します。

全人類が生まれた時から持っているクリエイティブへの情熱を呼び起こし、「誰もが価値創造に夢中になれる世界」を実現させます。

# 事業フェーズ別伴走支援

あらゆる事業創造を0から100のフェーズまで伴走しながら、Business, Tech, Creativeのエキスパートで最適なチームを組み、事業のフェーズにあわせて柔軟な体制で価値創造をサポートします。



## Ideation

0からの事業図造

- ✔ Business Ideation
- ✔ コンセプトデザイン



## Incubation

事業アイデアを育てる

- ✔ ビジネスデザイン
- ✔ フィジビリティスタディ



## Acceleration

アイデアをカタチにする

- ✔ プロトタイプ
- ✔ デザインプリント
- ✔ PMO支援



## MVP・PoC Development

プロダクト開発

- ✔ 1st Product Development
- ✔ サービスデザイン
- ✔ UIUX支援



## Growth

事業を1から100まで育てる

- ✔ Business Growth Support
- ✔ グロース開発支援
- ✔ DX人材育成

📌 テンジンテックカンパニーは自立自走しながら事業推進するチームを育てるための支援も行っています

# 中規模開発組織とも言えるグローバル体制

50名+

開発メンバー

2ヶ国

活動拠点

3都市（東京／横浜／インド）

グローバル展開

 エンジニア



日本：3名

 デザイナー



インド：50名



QA



フロントエンド



インフラ



AI



セキュリティ